

国際安全保障学会

2019 年度年次大会

Japan Association for International Security

Annual Conference 2019

同志社大学・今出川キャンパス

2019 年 12 月 7 日～8 日（土・日）

- 会員の方は、11 月 8 日（金）（必着）までに同封のハガキにて出欠をお知らせください。
- 非会員の方も、11 月 8 日（金）までに事前登録（本冊子の「お知らせ」欄をご覧ください）をお願いします。

年次大会のご案内

会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。2019年度年次大会のプログラムをお届けします。

安全保障研究として取り上げるべきテーマは非常に幅広く、国際情勢の展開にも刺激を受ける中で、プログラムを構成するのは決して容易ではありません。その中で、今年度もプログラム委員会の企画による部会と、会員からの応募を厳選した分科会を組み合わせ、時宜にかなったテーマの探求、理論研究、歴史研究など多彩なセッションを用意することができました。

また、特別講演では、前統合幕僚長の河野克俊様をお迎えして、自衛隊の変遷と将来についてご講話をいただき、続けて初の試みとして、パネルディスカッションによって討論を深めることにしました。

今回は京都での開催ですので、関西、西日本の会員も多くご登壇いただけるよう調整を致しました。もとより、全国から大勢の会員のご来場と、活発な議論を期待しております。

最後になりましたが、今回の開催の場を提供していただきました同志社大学と、関係各位に厚く御礼申し上げます。

国際安全保障学会 大会プログラム委員

12月7日(土)

◇受付 「良心館」3階 RY305教室前 09:30～

◇セッション I 10:00～11:40

部会① INF条約の失効が国際安全保障に与えるインパクト (会場 3階RY301)

報告

INF条約失効と米国—ミサイル開発の動向と軍備管理に関する取り組み

新垣拓(防衛研究所)

INF条約失効とロシア—米中の狭間の軍備管理と軍事力整備

岡田美保(日本国際問題研究所)

INF条約失効と中国—国際安全保障へのインプリケーション

浅野亮(同志社大学)

討論

津屋尚(日本放送協会)

司会兼討論

小川伸一(立命館アジア太平洋大学)

分科会① 日米韓の政治と安全保障 (会場 3階RY302)

報告

朴正熙政権に見る権威主義体制と米国の政治的関与—1960年代と1970年代の比較研究

劉仙姫(帝塚山大学)

国連軍司令部解体後の日米韓安保提携—「キッシンジャー構想」と事前協議制度

橋田和浩(防衛大学校)

アメリカの戦争の変容—海兵隊における軍事力整備の方法の転換

阿部亮子(同志社大学)

討論

菊地茂雄(防衛研究所)

司会兼討論

阪田恭代(神田外語大学)

◇セッション II 13:10～14:50

部会② 米インド太平洋軍と地域安全保障 (会場 3階RY301)

報告

米国の国防戦略とインド太平洋軍

村野将(ハドソン研究所)

米中大国間競争と米インド太平洋軍

小谷哲男(明海大学)

朝鮮半島安保体制の変化と米インド太平洋軍

西野純也(慶応義塾大学)

討論 門間理良 (防衛研究所)
司会兼討論 村田晃嗣 (同志社大学)

分科会② 安全保障の新たな視点 (会場 3階RY302)
報告

自衛権行使における報告要件と『事前』報告—累積理論の受容化
吉良悟(大阪大学大学院)

国連PKOを取り巻く環境の「複雑さ (complexity)」—軍事の役割とリーダーに求められる能力
川本祥彰 (陸上幕僚監部)

アジア太平洋地域におけるトラック2外交の展開 菊池誉名 (日本国際フォーラム)

討論 吉田靖之(高岡法科大学)
司会兼討論 久保田徳仁(防衛大学校)

◇総会 (会場 3階RY305) 15:00~15:40

◇セッションIII 特別講演 (会場 3階RY305) 15:50~17:30

講師 河野克俊 前統合幕僚長

演題 自衛隊の変遷とその将来

パネルディスカッション

パネリスト 千々和泰明 (防衛研究所)

パネリスト 岸俊光 (毎日新聞社)

司会兼パネリスト 国際安全保障学会会長 土山實男

◇懇親会 寒梅館「アマーク・ド・パラディ」 18:00~20:00

場所：良心館の外に出て、大学沿いの烏丸通りを渡ったところ (室町キャンパス内)

12月8日(日)

◇受付 「良心館」1階 RY107教室前 注)土曜日と違い1階です 09:30～

◇セッションIV 10:00～11:40

部会③ 核兵器をめぐる新たな論点 (会場 1階 RY105)

報告

未完の「放射性兵器禁止条約」—その構想と顛末 友次晋介(広島大学)

「大国間競争」の時代の米国の核抑止戦略—核兵器の「復権」?

高橋杉雄(防衛研究所)

核セキュリティに係る国際的取り組みの持続可能性—現状と展望

野呂尚子(日本原子力研究開発機構)

討論

太田昌克(共同通信社)

司会兼討論

鈴木一人(北海道大学)

部会④ 「人間の安全保障」25周年—非国家主体のインパクト (会場 1階 RY106)

報告

国際的なテロ予防における「個人」の発見と人間の安全保障との接点

佐々木葉月(熊本大学)

越境組織犯罪と人権 NGO—東南アジアにおける人身取引対策をめぐる2つの非国家主体のせめぎ合い

本名純(立命館大学)

移行期正義概念・制度発達における NGO の役割—人間の安全保障視座からの批判的考察

クロス京子(京都産業大学)

討論

中内政貴(大阪大学)

司会兼討論

栗栖薫子(神戸大学)

◇セッションV 12:30～14:10

部会⑤【自衛隊部会】

多次元統合防衛力—作戦領域の拡大と防衛力のシナジー効果について

(会場 1階 RY105)

報告

作戦領域の拡大と進化する航空防衛力 篠原秀俊(航空自衛隊幹部学校)

領域横断作戦における陸上自衛隊の取り組み 薄井一(陸上自衛隊教育訓練研究本部)

海上防衛力とクロス・ドメイン・シナジー 高橋秀行(海上自衛隊幹部学校)

討論 松村昌廣(桃山学院大学)

司会兼討論 山下愛仁(航空自衛隊幹部学校)

部会⑥ 分析視角としての国際システム—安全保障研究の視点から (会場 1階 RY106)

報告

冷戦期日韓安全保障関係における構造的要因—新古典現実主義に対する批判的検討

富樫あゆみ(東洋英和女学院大学)

リアリズムと国際システム—構成主義の視点から 畠山京子(関西外国語大学)

外交史研究は「システム」を描けるか—第一次世界大戦後の日米英関係を事例に

中谷直司(帝京大学)

討論 今井宏平(アジア経済研究所)

司会兼討論 植木(川勝)千可子(早稲田大学)

◇セッションVI

14:20~16:00

部会⑦ 新技術 (Emerging Technologies) と安全保障

(会場 1階 RY105)

報告

新技術と国家のパワーの変容試論 秋山信将(一橋大学)

新技術の概要と安全保障戦略への含意—米中露におけるロボット工学・自律型システム・

人工知能(RAS-AI)に関する技術開発の動向 富川英生(防衛研究所)

エマージング技術の管理手法の模索—米国を事例に 松村博行(岡山理科大学)

討論 西正典(日本生命)

司会兼討論 西山淳一(未来工学研究所)

分科会③ 日本の外交・安全保障

(会場 1階 RY106)

報告

日本の安全保障政策決定過程の変遷 信田智人(国際大学)

1950年代から1960年代にかけての日米共同防衛体制 真田尚剛(立教大学)

日本的現実主義者の国益観 神谷万丈(防衛大学校)

討論 高橋和宏(法政大学)

司会兼討論 中西寛(京都大学)

お知らせ

【大会参加費】

・レジュメ（報告要旨）集の作成費として、会員 1 千円、非会員 2 千円を大会当日受付にてお支払いください。ただし、非会員の方で、学会より報告、討論などを依頼された方は、お支払いいただく必要はありません。

【非会員で聴講される方へ 事前登録のお願い 締め切り 11 月 8 日（金）】

- ・学会事務局（jais@naigai-group.co.jp）に以下をお知らせください。
 - ① お名前、② 勤務先、③ 連絡先（住所・電話）、④ 聴講希望する部会・分科会名
 - ⑤ 懇親会の出欠
- ・参加登録メールをお送りしますので、それを当日受付に提示してください。
- ・報告、討論を依頼された非会員の方は、事前登録の必要はありません。

【懇親会費】

・12 月 7 日（土）18 時からの懇親会に参加される方は、会費 5000 円（院生会員 3000 円）を当日受付でお支払いください。事前のハガキ返信で欠席とされていても、当日出席可能になれば是非ご参加ください。当日キャンセルはお控えくださるようお願いいたします。

【理事会の開催予定】

- ・12 月 7 日（土）12：00～13：00 良心館 4 階 RY436

【昼食】

- ・12 月 7 日（土）は、学内食堂（良心館地下 1 階「良心館食堂」、明德館地下 1 階「明德館食堂」、寒梅館の「アマーク・ド・パラディ」など）が営業しています。
- ・12 月 8 日（日）は、学内食堂が休業です。周辺の飲食店にも限りがあります。同封の返信用ハガキで弁当をご注文いただくことができます（1000 円、当日払い）。

【その他】

- ・自家用車でのご来場はできません。
- ・報告、討議中の会場内での撮影、録音はやめてください。携帯電話での通話もご遠慮ください。
- ・本プログラムは、やむをえない事情で一部変更される場合もあります。
- ・大会の最新情報は学会ホームページ（<https://is-japan.org/>）をご覧ください。

